

森林調査におけるビッテルリッヒ法と統計数理*

Bitterlich Method and Mathematical Statistics

森林調査において、ビッテルリッヒ法が導入されてからかなり久しく経ち、現場に利用されることも見受けられるが、森林調査という観点からみると、議論すべき余地が多い。この問題は、林学研究者と統計研究者とが、相携えてともに研究を重ね検討をしなければならない問題である。しかし従来は、林学研究者は林学の専門分野というせまい枠の中において議論をし、統計研究者は統計的方法という観点からシャープな或は大づかみな議論をしていて、ともに面と向って突込んだ議論をすることがなかった。このため、この方法を「良し」とするもの、「悪し」とするものの声のみが流れ、一般の人々にはその是非・功罪の見極めがつかなかった状況であった。そこで、林学研究者、統計研究者が集り、突込んだ議論を行って、ビッテルリッヒ法のもつ特色を明らかにしようとして、ビッテルリッヒ法をその内側から細く研究することは勿論大切であるが、さらに大事なことは、ビッテルリッヒ法の外側から森林調査法という広い枠内でその位置づけを行わねばならないことであると思う。ここに掲載する論文は、如上のことを目指して行った共同研究討論の第1集である。勿論、これだけでは、十分に論じ尽されたものとは言えない。今後調査実施を含めた共同研究によって、さらに明らかにされる点が出て来ると思われる。

(林知己夫記)

目 次

1. 大友 栄 松： 角度測定法に関する研究
2. 高田 和 彦： 電子計算機によるビッテルリッヒ法のシミュレーション
3. 北村 昌 美： 一致高和について
4. 西沢 正 久： 角度測定法の応用について
5. 石田 正 次： 統計的立場からみたビッテルリッヒ法

* この研究は、林業統計研究会 (Japan Association for Forestry Statistics) におけるシンポジウム「ビッテルリッヒ法をめぐって」(昭和41年4月6日、京都府立大学農学部に於て)における討論にもとづいてまとめられたものである。